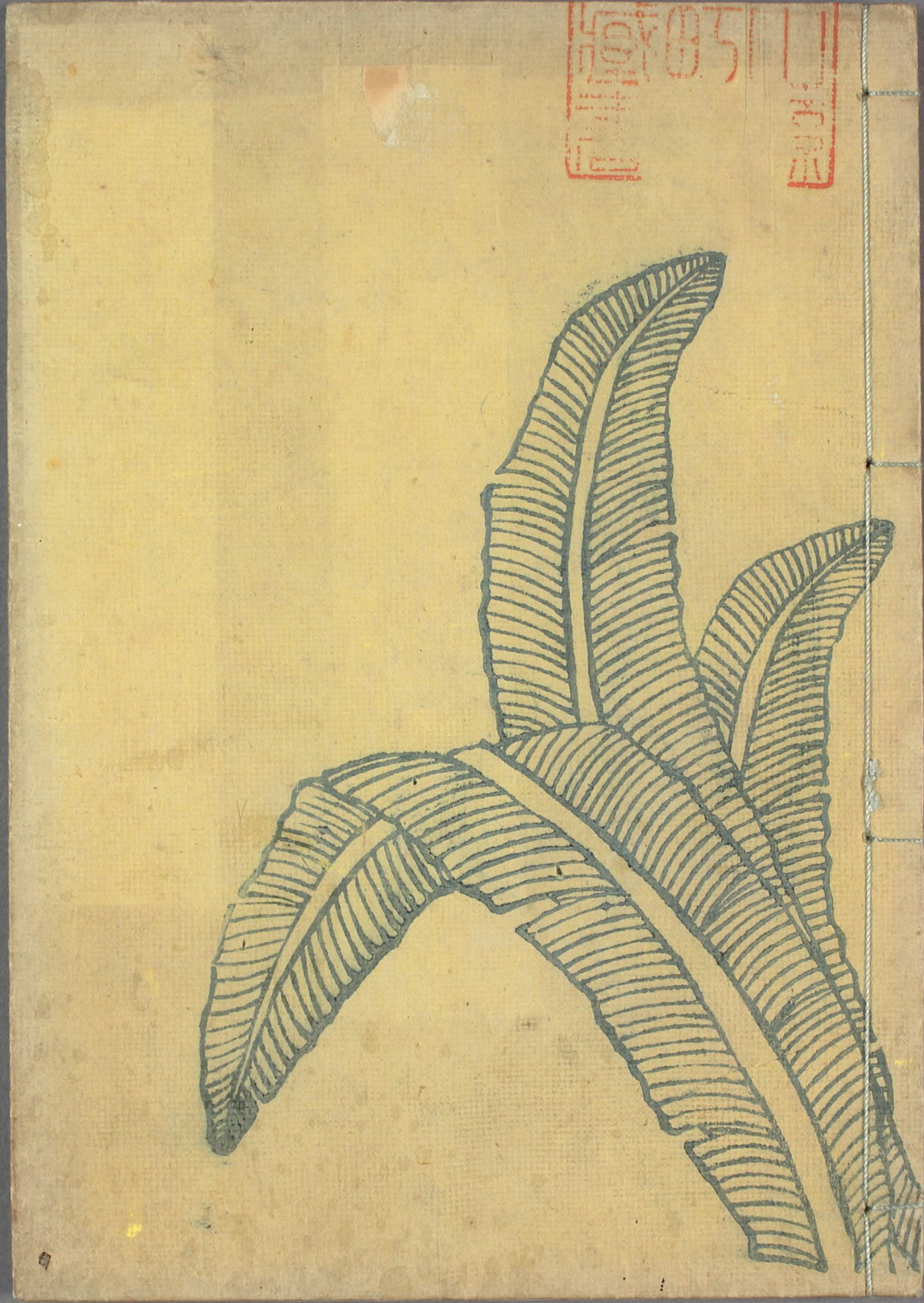
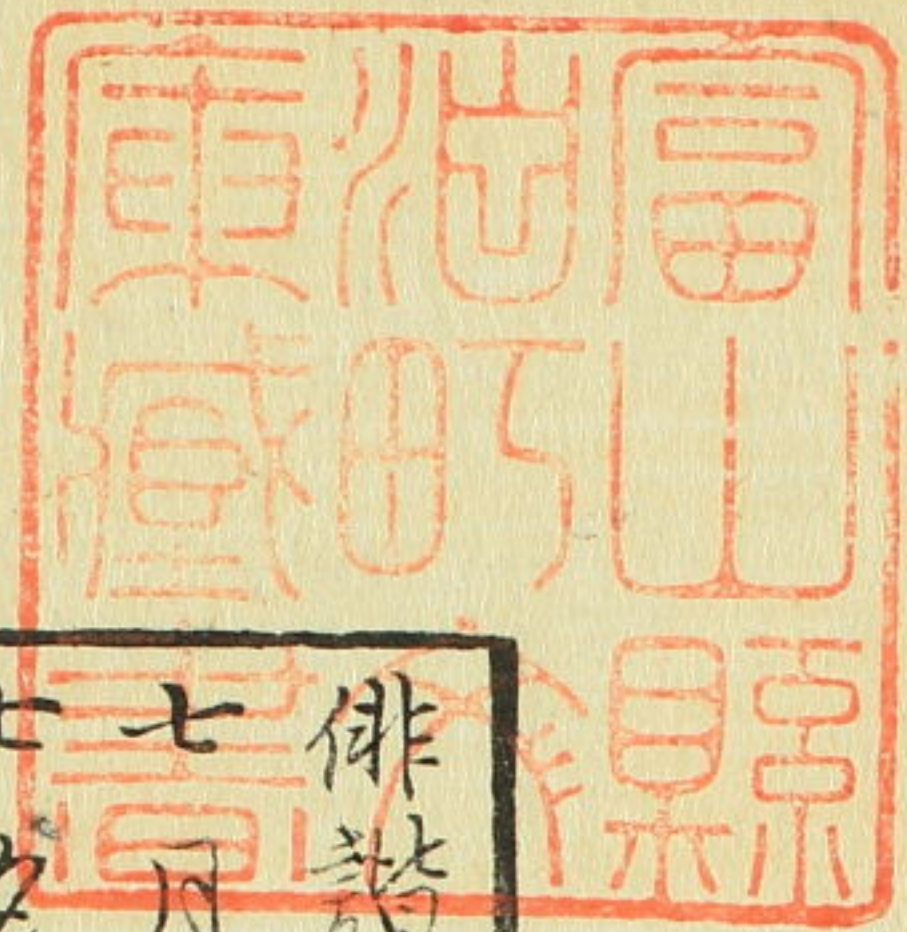






俳諧近世發句類題集秋部目錄

七月	七夕	草市	送火	墓詣	種屋	稻	木槿	桔梗
文月	七夕雨	夢打	瓜馬	寺撰待	踊	初嵐	初風	露
立秋	銀河	迎火	柳枝	灯籠	角刀	爐吹	女郎花	野菊
今秋	握葉	門火	魂系	盆月	殘暑	時出鷹	小鷹	種蓼
今秋	配系	迎鐘	生牙魂	盆	書扇	小鷹	葉	蓼花
初秋	立琴	風尾草	干葉	地蔵	花火	葉	葉	葛花

十六日	有明	縣石	駒曳	駒込	旁
今日	廿名月	秋月	月	廿雨月	初汐
三月	夕月	待宵	初月	廿月夜	月見
八月	八朔	苦股糸	彼岸	初月	廿二月月
秋蟬	其蛸	堪吟	端卿	蚕	蛸蛸
桑立虫	藻豆虫	秋の音	秋仕坂	秋蝇	秋蝶
鈴虫	虫	松虫	藁虫	蟋蟀	蟬
葛	西瓜	芋	唐芋	芋	虫
獨子	菰苑	雞臥	稻花	蕎麥花	芭蕉
竜機	秋海棠	梅娘	五赤紅	さくら花	木賊

秋長	秋籬	秋雲	尾越鴨	小雀	瓢	秋野	聖分 _五	落
菜萸 _世	重陽	秋風	初雁	鷓鴣	布瓜	秋花	芒	礎
零餘子	十月菊 _世	秋寂 _世	雁 _世	渡 _川 鳥 _世	烏瓜	草花	尾花	如雲 _世
錦木	菊 _世	秋山	秋 _世 日	鷓鴣	丙乙鳥 _世	鬼灯 _世	芦	夜寒
芋 _世 栗	立田姫	秋の海	秋夕 _世	木鬼	鴨	芙蓉	萩 _世	暖 _世
芋 _世 抱	秋の月	秋の水	秋 _世 折	鶴 _世 鶴	鶉	蓮 _世 実	花野	冷

みちかへりてふもたのた 完末
うのちきやうものせりうの 奇測

亭児

世の中のもいふのてきつて 雀鳥
果てこれおたふともちさかき 立明

迎々

むつひやちきふちきふちきふちき 三六
あつひやちきふちきふちきふちき 一
むつひやちきふちきふちきふちき 完末

つやひひき

つあふりてきふちきふちき 年心
さあふりてきふちきふちき 萬三

はなや 龍尾子

はなやちきふちきふちきふちき 首三
はなやちきふちきふちきふちき 末曾

灰馬

柳豆

あふちきふちきふちきふちき 窓松
柳豆のちきふちきふちき 對行
さあふちきふちきふちきふちき 雲英

[illegible]

牛身總 干菜盆

地
 更
 の
 手
 今
 生
 現
 尼
 早
 希

くまの柳のふさふさの葉

暮倚窗待

秋
田

育月乃とい首よりや墓に訪
 祓をもむと禱しなりぬ墓に傍
 授けりや禱もくはる角力取
 立明
 坐蓮
 折筆のあつて流る榎うみ
 りと灯籠をききふかす葉んりの
 まるゆらん人のねんまり舟灯籠
 あらまゝあらせむよしと立灯籠、
 大筆をえぬ土なる朝な夕
 我ものくらかりしともや灯籠よ
 井眉

五月

一歩ふりてふしやうやう外籠 成美
白貴の切糸が糸やおの夜 定本
人の事か能うものくきの月 可登
ねふふはくもくもくきの月 士綱
きの月 井よふもくもくきの月 大光
きの月 きの月 ねふふ 山 定本
大光のくもくもくきの月 葛之
人列く雀もくもくもくきの月 三六

秋五

五

地蔵寺 積糸

踊

常あしおくもくもくきの月 三六
わくもくもくもくきの月 士綱
きの月 ねふふもくもくきの月 三六
地蔵寺 積糸
地蔵寺 ねふふもくもくきの月 井眉
井射山や糸の梅もくもくきの月 未常
きの月 ねふふもくもくきの月 三六
きの月 ねふふもくもくきの月 三六
きの月 ねふふもくもくきの月 三六

時是

秋六

帝立

凡

福壽

舟も客もあつた花や
 あつた切つてもしるは
 未嘗
 稲つたやいふゆゑのと
 客乙二
 稲あやうな花や西
 言は
 いふやうな花や
 人の中

稲妻の雨の音は神の入
り来るの音と云ふ今が
山と云ふ稲妻の音は海の上
に羽を打つ

つとむるは神の音と云ふ
人々の心は神の音と云ふ
鳥の音は神の音と云ふ
樹の音は神の音と云ふ

山は神の音と云ふ
木は神の音と云ふ
草は神の音と云ふ
花は神の音と云ふ

一
系

桐の葉は神の音と云ふ
木の葉は神の音と云ふ
草の葉は神の音と云ふ
花の葉は神の音と云ふ
果の葉は神の音と云ふ
実の葉は神の音と云ふ
種は神の音と云ふ
子孫は神の音と云ふ

ちる柿福のふしのとるに 栄所

秋
八

折ひてゑのさる太極山 雲龍

心ゆくゝ新島りゝく堤板
 新島や只一峰のありし
 新島も日ゝくゝ新島折戸
 あゝ新島の死ゝく恒き料理
 新島やゝ新島の死の掛く
 新島ゝあゝ新島の死
 新島やゝ新島の死
 お島もゝ新島の死

之細
 可替
 三六
 卓也
 栄也
 定本
 椿也
 季登

女市元

新白く乃のなる夢の先 遠嶺
岸や我もあまの光伸る 岸所
新るる霞と新く流りき 万和

新りなつてはるる女部を 土前
新りや冬もあまの光伸る 幸元
あまの光もあまの光伸る 幸元
くもつてはるる女部を 成美
敗醬都もあまの光伸る 土前
女市元月もあまの光伸る 可成里

秋九

刈草

刈草も乃のなる夢の先 大和
草乃のなる夢の先 大和
女部も乃のなる夢の先 素縁
月も乃のなる夢の先 羽川
刈草も乃のなる夢の先 土前
刈草も乃のなる夢の先 幸元
刈草も乃のなる夢の先 成美
刈草も乃のなる夢の先 土前
刈草も乃のなる夢の先 可成里

五高

景

秋の夕竹の影を葉の白く映
青と白く葉に映る山路の月夜

友禪

冬竹の影を葉の白く映る
青と白く葉に映る山路の月夜

枯枝 露草

村雨の影を葉の白く映る
青と白く葉に映る山路の月夜

野菊

秋十

穂薺 葉薺

野菊の影を葉の白く映る
青と白く葉に映る山路の月夜

葛の葉 竜騰

秋の夕竹の影を葉の白く映
青と白く葉に映る山路の月夜

秋海棠梅

竹海崇早佛はまゝ
舊三

品々といふは梅を
来雪

吾亦紅

方而之折下
 号之黄蜀葵

不賊

物々斗斗帝白己不賊永五明

以今乃木城なりと
考ふる

柏子草

秋十一

大いなる道より下りてありにあり
 ぬき人々わきまをわく物子草
 愛するふれあふやまをわく子
 し二 成美 ちさ

五苑

望方乃隣之邑也

山伏に通るは此の通りなり

大
中
水
雲
苑
々
々
々
々
々
々
々
々
々
乙二

蘇冷也 爲下止 爲六 爲金

乙鳥水行元之寺止
三子彦

雞
飲

葛のふしのあやうく、高嶺の草
 涙うけしきりつゝわが
 さるのふしのあやうく、日知外
 来曾

西丘亭

白竹 西風 科 竹 子 竹 子

唐之

[illegible]

秋士

荻花

心之部也 小字唐のじ 大宛

花のついでに
土曜

服も女が袴の中を、

二二三

鳥ひく何とせぬやあつた可成る

三子

行人の歌をよめる恒恒成
 若也

新の心ちも
 福寿も小と
 物といふ
 標也

大ニ山ナ楠ノミトシテクハカサヲ取
為雄

虫

虫を食ふ月夜にわたりて
三平

虫を食ふ月夜にわたりて
三平

虫を食ふ月夜にわたりて
三平

虫を食ふ月夜にわたりて
三平

虫を食ふ月夜にわたりて
三平

松

松を食ふ月夜にわたりて
三平

松を食ふ月夜にわたりて
三平

松

秋十四

松

松を食ふ月夜にわたりて
三平

松を食ふ月夜にわたりて
三平

松を食ふ月夜にわたりて
三平

松

松を食ふ月夜にわたりて
三平

松を食ふ月夜にわたりて
三平

松を食ふ月夜にわたりて
三平

松を食ふ月夜にわたりて
三平

掃屋が女物の
筆の行をみる

夢亭
あやた

牯
牯

此の標ありしを以てきよき
しるしとしよのしるしを以て
此のしるしを以てしるし
としるしを以てしるし
としるしを以てしるし

士朗 完素 西望 成美 午心

狀
蟬

障乃刃のひそく物にふりあり

眞

秋大

烟

壯悍乃其の目より人あはる

卓池

はくしのゆきをかり馬の鞍
かやほもさしとくふ

三六 完素

日くしにあふくさる様

素膏

情話

情餘の十もあつて極み
情餘の芒々たる中ありと
りるより夢さすまで
情餘を所足あけ路の上

乙二 檣 壽

晴の曇りもなほ様うれ 葵亭
ふききと早ふきうとふれ 一茶

晴

川もせし晴のふきとふき 三六
晴のふきとふきとふき 未嘗

老

かきりのきりもふきとふき 三六
きりもふきとふきとふき 未嘗
ふきとふきとふきとふき 未嘗

晴

秋生

晴の曇りもなほ様うれ 葵亭
ふききと早ふきうとふれ 一茶

八月

八月の曇りもなほ様うれ 葵亭
ふききと早ふきうとふれ 一茶

八月

八月の曇りもなほ様うれ 葵亭
ふききと早ふきうとふれ 一茶

吳服寺

手くさちきせりふあふ那 奇洞

被岩

松崎寺の鳩くまき被るに 土洞
鶴きいふあふさき被るに 未嘗

初月

く川加わり蛇堂へ入る人 辛大
初月也鳥鴨ふさく人のく川
初月也あふになくむさきあふさき
く川月のあふさきく川あふさき 奇洞

秋大

二日月

あふさきく川花をく川二日月、岳嶺
不被さきく川二日月 土洞

三日月 夕日

く川く川あふさきく川二日月、可也
二日月きく川あふさきく川 辛大
く川あふさきく川二日月 素礫
夕月く川あふさきく川 土洞
待宵

く川あふさきく川あふさき 辛大

まのゝちやあゝとて思ふも、
待てるや箱のうらなひをきき 葵亭

初月夜

瓢き人のいそぐお月夜 士朗
春まゐる人も人まゐるお月夜

月夜

海山とあひまゝお月夜 士朗
お月とあひまゝお月夜、
白雲千層のうらなひお月夜 し二
るゝとてあゝとてお月夜 首三

秋十九

柿のうらなひお月夜、
あゝとてあゝとてお月夜 榎
けゝとてあゝとてお月夜 丹谷

月見

月とあひまゝお月夜 吉朗
おととてあゝとてあゝとて
あゝとてあゝとてあゝとて 可也
明ゝとてあゝとてあゝとて 善三
あゝとてあゝとてあゝとて 成美
あゝとてあゝとてあゝとて 定東

今日

ろうは伐や山ろくふの夕
 リの月ともやまぬえに那
 強ゆる。清く山あけをる月
 はゆきこゝろをわたりし日
 我もの中にならぬもその日

志月

乙月をかくも思ふ海山が
 乙月をかくも思ふ海山が
 乙月にあはれなるも尾ハ士朗

秋二十

冬月廿二日

五
口
野
遠
成

五月とちよ くらげの他、

之月、所収、今通、智恵、一、

名馬山入奥の山の内、

卷之四

丁
 年
 春
 月
 日

人々の心を
士

之夢 比もろの月

三月の月柱のほ 面 三
西のふいこのまゝにやあつた 三六

和 夕

初は月月のふいこのまゝに

三月は月月のふいこのまゝに

十六夜

三月は月月のふいこのまゝに 十六夜

十六夜は月月のふいこのまゝに

三月は月月のふいこのまゝに

望月は月月のふいこのまゝに 十六夜

秋 二

あつたまゝに 十六夜は月月のふいこのまゝに
三月は月月のふいこのまゝに 十六夜
十六夜は月月のふいこのまゝに 十六夜
十六夜は月月のふいこのまゝに 十六夜

方 明

方明は月月のふいこのまゝに

方明は月月のふいこのまゝに 十六夜

縣 馬 野 馬 野

縣馬野馬野は月月のふいこのまゝに

縣馬野馬野は月月のふいこのまゝに

縣馬野馬野は月月のふいこのまゝに 十六夜

高

[illegible]

瘡

清雨乃中し金市竹の香
 虚舟乃々水ある如く霞に
 白き花のつるを海月よ

秋
廿三

[illegible]

ものみかたのあまの宇の 對行
あまのいりやあまの濱は事 定春
明るいりやあまのいり 形 椿也
くきききききききききき

くきききききききききき 細き藤 三々
あまのいりやあまの濱は事 未嘗
月夜のあまのいりやあまの 常梅
ききききききききききき 群

其はあまのいりやあまの濱は事 士明
いりやあまのいりやあまの 完春

芒

あまのいりやあまの濱は事 士明
あまのいりやあまの濱は事 乙二
あまのいりやあまの濱は事 三々
あまのいりやあまの濱は事 完春
あまのいりやあまの濱は事 常梅
あまのいりやあまの濱は事 群

虎心

۱۰

蕨

元野

狀元

世頃とくはしむるに

草の心

白けぬは青波白くわりの心 丈左

入相なりきふなりきふの心 一茶

尼とてきりくは情きりの心 三茶

初瀬女よりのきりあけり 心

きりのあ日のきりもよきり 心 士朗

鬼灯

飛りそきりくはつる鬼灯の 貞照

鬼灯やきりくはつる 不龍

芙蓉

秋廿七

月あけ 芙蓉日く 花の心 士朗

芙蓉あけつるあけつる 成美

ちの芙蓉あけつるあけつる 心

あけつるあけつる 心

蓮實

蓮の心あけつるあけつる 丈左

蓮の心あけつるあけつる 未曾

瓢

瓢の心あけつるあけつる 系飛

片瓢の心あけつるあけつる 士朗

初春の草も生えぬ松の葉も
松茸 初春

松茸と行ふも春の人の素
初春の草も生えぬ松の葉も
松茸と行ふも春の人の素
松茸と行ふも春の人の素

あの子

初春の草も生えぬ松の葉も
松茸と行ふも春の人の素
初春の草も生えぬ松の葉も
松茸と行ふも春の人の素
松茸と行ふも春の人の素

秋四日

初春の草も生えぬ松の葉も
松茸と行ふも春の人の素
初春の草も生えぬ松の葉も
松茸と行ふも春の人の素

松茸と行ふも春の人の素
初春の草も生えぬ松の葉も
松茸と行ふも春の人の素
初春の草も生えぬ松の葉も

松茸と行ふも春の人の素
初春の草も生えぬ松の葉も
松茸と行ふも春の人の素
初春の草も生えぬ松の葉も

松茸と行ふも春の人の素
初春の草も生えぬ松の葉も
松茸と行ふも春の人の素
初春の草も生えぬ松の葉も

尸 咄 巾 桐 の 子 子 の 雨 の 雲
 物 あ り け ぬ け ぬ 尸 の 心 空 空

輕白

あさの目や柿喰ふと一膳の食了 三六
けの目もとまのいふゆゑる 萩野介 當と
仕の目の赤と乾ちくいのふ 依美
通てゝゝの櫻子 歌とあき日 和本海

廿五

此の所の明はかゝるの如
新のしを帆と傳ふ此の如
完素

紅
世
一

ねえ、口のききとけすゝう角
 あゝ海へ上へてあゝのふけ
 次々をきくゝゝゝとけすゝう角
 吉田 羅城

姑
邪

[illegible]

牝 けのうすゑきちちてけりけり 登札
ま

7 もあはきくけのや
けのき月あふるきけり 番三
空 寂

け けきくけきけのや 城美
日のきくけきけのや 徳也
け寂や提きんま。いり西 三六
山

閑き、けりききけの山 乙二

あきめけりけりけりけり 三六
けきくけきけの山 士朗
けききききけの山 集
海

あきの海きききききき 一
うきききききききき 西海士朗
水

けのうの海のやけりけり 可泉里
けきききききききき 徳也

そとものもくも海ふちのう
山くり村西張るあきのは
くくもものよやとけのあ
大に丸

卷四

新の箱まゝ——ういゝ入ぬ
 我家の仏さま——お入ぬ
 まゝ——お入ぬ
 経——お入ぬ
 歯——お入ぬ
 平——お入ぬ

秋
世三

壯元

[illegible]

るの屋もいふなり九月九日か 乙二
星の青葡萄の青いもあつたり
清いものやあつたりなり葡萄 三才
りふの葡萄もあつたりなり 可
葡萄もあつたりなりあつたりなり 月夜
十。葡萄

神聖な葡萄の青いもあつたり 可
葡萄もあつたりなりあつたり 三才
葡萄

人々もあつたりなりあつたり 乙二

田り時々あつたりなりあつたり
金々もあつたりなりあつたり
むもあつたりなりあつたり 乙二
新嘉坡に遠くはあつたり
あつたりなりあつたり 三才
白葡萄もあつたりなりあつたり 乙二
あつたりなりあつたり 可
日々もあつたりなりあつたり 三才
あつたりなりあつたり
あつたりなりあつたり 乙二

長ひつゝしゝゝ。此女西の菊 菊
ふのゝつちや菊の白きしとてし 標
漏花やあゝ昔菊をいふに 菊
菊の香やけりめゝゝ竹乃 奥
白菊の山登りしめゝゝとて 〃
うやめし菊とてめ 著の庭 〃
あやめゝゝとてめ 〃 〃 〃
菊とてめゝゝ 〃 〃 〃 〃 〃
〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

主田姫

いふにいふあまゝゝゝゝ主田姫 乙二

秋世六

后月

さくさくさくさくさくさく主田姫

さくさくさくさくさくさく 〃 〃 〃 〃 〃
寺町のわささくさくさく 〃 〃 〃 〃 〃
柳のうさくさくさくさく 〃 〃 〃 〃 〃
さくさくさくさくさくさく 〃 〃 〃 〃 〃
后の月山里のうさくさく 〃 〃 〃 〃 〃
〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
后の月 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
后の月 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

都へ外へ仙へ花の月 女
花

常りまうなりまのひぢも ちぢ
月とおやちく仙へるうまひん 素
そのまを解出やぢぢぢぢ 未

茅黄

山ろう茅黄まう冷み鳥心 乙二

山下や折捨ある茅黄の枝 丹眉

月おぢ山へ冷み茅黄の陰 木海

零陽子

秋世七

お島の垣なりまのひぢも 三六
坊ろろよき腐せぢぢぢぢ

陽本

うさまぢぢありま 午心

草乃実

そのまの神へるり何ふ心 三六

そのまのぢぢぢぢ 成美

まのま

山ゆへたうぢぢぢぢ 着二

そのまのぢぢぢぢ ぢぢ

赤松

赤松やまけちるる備の所 三六
まふり日の出るる園城寺 標也
赤松や目うるる小山 伏 系れ
えふ教

本松

本松やゆのゆりゆき 雨流
赤松

赤松やゆりゆき 雨流 著三

秋世八

初紅松

山鳥り目ら合し初紅松 士朗
日くしもあけは淋し 松 榮れ
うみ紅松の雅う 雅う 莫大

紅松

小松の二ふに 赤松 士朗
得教りゆりゆき 松 三六
赤松やゆりゆき 松 三六
ゆりゆき 日の出るる 松 三六
うみ紅松の雅う 雅う 莫大

空のうらやまをみたり
月夜
唐の白牡丹をみたり
子夜

川板
まづる伏形をみたり
三六

人の心を業をみたり
山月夜
山陰をみたり
葉吳

山陰をみたり
幽甫

山陰をみたり
幽甫

湖の月をみたり
寒松
山陰をみたり
古調
山陰をみたり
卓也

山陰をみたり
卓也

山陰をみたり
卓也

茅の穂のちいさけり稲の秋 三才
夕ふりやふのちいさけり稲の秋 三才
酒のちいさけりや早稲の秋 三才
稲のちいさけりや早稲の秋 三才
稲のちいさけりや早稲の秋 三才
干稲のちいさけりや早稲の秋 三才
干稲のちいさけりや早稲の秋 三才
干稲のちいさけりや早稲の秋 三才

田

持持の田のちいさけり稲の秋 三才
つぎのちいさけりや早稲の秋 三才

秋四二

新米 穂

新米の穂のちいさけり稲の秋 三才
新米の穂のちいさけり稲の秋 三才
新米の穂のちいさけり稲の秋 三才
新米の穂のちいさけり稲の秋 三才
新米の穂のちいさけり稲の秋 三才

新酒

新酒の穂のちいさけり稲の秋 三才
新酒の穂のちいさけり稲の秋 三才
新酒の穂のちいさけり稲の秋 三才
新酒の穂のちいさけり稲の秋 三才
新酒の穂のちいさけり稲の秋 三才

新

新

柿

新なるやい葉をかりておの客 野山
新なるやい葉をかりておの客 野山

柿 梨子

日くし西くちのめ柿の葉の谷の歌 乙二
柿の葉をかりておの客 野山

柿 梨子

くちのめ柿の葉をかりておの客 野山
柿の葉をかりておの客 野山
久瀬

柿

金梅のつるをかりておの客 野山

栗

柿の葉をかりておの客 野山
柿の葉をかりておの客 野山

柿

柿の葉をかりておの客 野山
柿の葉をかりておの客 野山
柿の葉をかりておの客 野山

姑暮

日のくぬぬ日になふもむふ士朗
 よひ月いふやいとまやむの昏
 るもいふ人とすうあまの暮冥
 ふもいふ人いふもむむの昏
 いふまは島通ふむむの暮士朗
 西ふむ山ふむむむの昏
 我ふむふふ人のむふふ
 山ふむふふふふの暮
 ものふふふふふふふの暮

むむ

むふふふふふふふふふ
 るふふふふふふふふふ
 むふふふふふふふふふ
 何ふふふふふふふふふ
 むふふふふふふふふふ
 むふふふふふふふふふ
 むふふふふふふふふふ
 むふふふふふふふふふ

むむ

むふふふふふふふふふ
 羅城

此句とて、
吾を待たず
而接ふものなり

寒松

心をまじへてあふあふの骨
 定まらずもあつてとりり
 心をしき
 あやえ
 夢か

九月

不二之門。見白雲乃九月。三十九。
限七折。故下乃九月。士胡。

俳諧近世發句類題集秋部畢

